

# 取扱説明書

---

鋳鋼製フランジ形 Y 型弁

PV-810GY

---



株式会社 宮入バルブ製作所  
MIYAIRI VALVE MFG. CO., LTD.

## 目次

	ページ
1. 概要	2
2. 製品名	2
3. 仕様範囲	2
4. 構造と特長	2
5. 運搬及び保管	3
6. 配管要領	3
7. 使用上の注意	3
8. 点検及び保守	4
9. 分解・組立要領	4
10. 交換部品	5
11. 保証期間	5
12. アフターサービスについて	5
13. 構造図	6

## はじめに

この度は、宮入バルブの製品をご採用いただきまして誠にありがとうございます。ご使用に際しては、本取扱説明書をよくお読みになり、内容を理解された上で本機器をご使用くださいますようお願いいたします。また、必要に応じて利用できるよう、お読みになった後もお手元におかれることをおすすめいたします。

## 1. 概要

本製品は、液化石油ガスおよび一般高圧ガスの設備用として製作されております。

## 2. 製品名

品名:	鋳鋼製フランジ形Y形弁
型式:	PV-810GY
サイズ:	25A、50A
図面番号:	B-27256

## 3. 仕様範囲

(1) 使用流体	.....	可燃性ガス、毒性ガス
(2) 設計圧力	.....	2.4MPa
(3) 設計温度	.....	-5～120℃
(4) 耐圧試験圧力	.....	3.9MPa
(5) 気密試験圧力	.....	2.4MPa
(6) 接続仕様	.....	JIS20K フランジ RF
(7) 本体材質	.....	SCPH2

## 注意

これは標準仕様です。使用範囲が本仕様と異なる場合は、ご注文成約時の図面に記載されている仕様及び製品の検査成績表の内容と照合し、仕様の範囲内であることを確認した上でご使用ください。

## 4. 構造と特長

- (1) ボンネットはボディにねじ込まれ、ガスケットにより気密を保持しております。
- (2) バルブの開閉は、ハンドルの回転により弁体を上下させて行い、ハンドルを右回しすると「閉」、左回しすると「開」になります。
- (3) グランド機構は、グランドパッキンに PTFE のコーンパッキンを使用し、サラバネによってシール面圧を保持しておりますので、気密性、耐久性に優れております。またグランドナットの増し締めも可能です。なお、上部の O リングはダストシールの働きがあります。
- (4) 弁体には、弁シート部と、グランド漏れを防ぐ働きがあるバックシートが付いています。二つのシートは、共に PTFE パッキンを使用したソフトタッチ方式ですので、気密性にすぐれています。

## 5. 運搬及び保管

- (1) バルブを落とす、倒す、投げる、引きずる等の乱暴な取扱で、強い衝撃を与えないでください。漏れ、故障の原因となります。
- (2) 運搬及び保管は、荷姿のままで、ゴミ、埃、雨等がかからないようにしてください。
- (3) バルブの入口及び出口にはフランジガード、キャップが取り付けられていますが、砂、ゴミ等が入り漏れ及び故障の原因となりますので、取付直前まで取り外さないでください。また、配管取付の際は必ず取り外してください。
- (4) バルブを持ち上げるときは、バルブのハンドルを持って持ち上げたり、ハンドルにロープなどを掛けて吊り下げたりしないでください。ハンドルが外れた際落下して危険です。また、故障の原因となります。

## 6. 配管要領

- (1) 取付の際は、配管内の切粉、溶接スパッタ、スケール等を十分に清掃してください。
- (2) バルブには流れ方向がありますので、ボディの表示によって方向を確かめて配管してください。
- (3) バルブを配管する際は、フランジのパッキン座面に貼ってあるフランジガード又はキャップを必ず取り外して下さい。
- (4) バルブフランジと配管フランジの間に、ガスケットをずれの無いように正しい位置に挟み込んで取り付けてください。この場合、ガスケットには適正なシール剤を塗布してください。
- (5) フランジボルトは、対角線上の物から交互に、均等な力で締め付け、片締めの無いように注意してください。
- (6) バルブは自重及び操作時の力によって、配管または取付部に無理な荷重がかからないように、バルブまたは配管を支持してください。
- (7) バルブは、配管の膨張、収縮、地盤沈下、地震などによって無理な力を受けないように取り付けてください。

## 7. 使用上の注意

- (1) ソフトシートを使用しているため、ハンドルの開閉操作にはハンドル回し(ハンガー等)の使用は避けてください。漏れ、故障の原因となります。
- (2) グランド部に使用されているコーンパッキンは、気密性の優れたパッキンですが、万一漏れが発生した場合はグランドパッキンの増し締めを行ってください。グランドナットの増し締めは、ハンドルを回しながら、ハンドルがやや重く感じる程度まで行ってください。この時グランドナットの回転数としては 1/6～1/2 回転程度としてください。増し締めを行っても漏れが止まらないとき、ハンドル操作が重いとき、またグランドナットの回転数(増し締めしろ)が多いときはパッキンの交換を行ってください。
- (3) 本バルブは全開または弁閉の状態で使用してください。

## 8. 点検及び保守

設備の運転開始時、運転終了時、及び運転中に以下のような点検を行ってください。

- (1) グランドナット部から漏れがあった場合はグランドナットの増し締め、必要に応じてコーンパッキンの交換を行ってください。
- (2) ボンネット部から漏れがあった場合は、分解組立要領に従ってガスケットの交換をしてください。
- (3) ハンドル開閉時、キーキーという摩擦音がでたり、ハンドル開閉が重く感じられるときは、ハンドルを全開しスピンドルのパッキン摺動部を清浄した後、グリースを塗布してハンドルを開閉しパッキンに馴染ませてください。改善されないときは分解組立要領に従って、コーンパッキンを交換してください。また、スピンドルの上下移動量(ガタ)が0.5mm以上あるものは、スピンドル、ボンネットのねじ勘合部の摩耗が予想されますので、分解検査を行ってください。

その他、高圧ガス保安法の管轄下で使用されるバルブは、法規上の規定に基づき検査を実施してください。

## 9. 分解・組立要領

### 9.1 分解(構造図を参照ください)

- (1) 弁を中間開度にして、残ガスの処理を行い、内圧が無いことを確認して配管よりバルブを外してください。
- (2) 「19」ナットを取り外し、「20」スプリングワッシャ、「18」ネームプレート、「17」ハンドルを取り外してください。
- (3) グランド内の残ガスが充分抜けたことを確認してから、「4」グランドナットを取外し、グランド内部品、「22」サラバネ、「21」Oリングを取り外してください。
- (4) 「2」ボンネットを弛めて外すと、「3」スピンドルが「7」弁体の組品がボンネットにねじ込まれた状態で外れます。「14」ガスケットを取り外します。
- (5) 「3」スピンドルを回しながらボンネット下方に抜き取り、ボンネット上部に装着されている「5」パッキングランド、「16」パッキン、「6」パッキン座を外します。
- (6) 「12」Uナットを外し、「11」ワッシャ、「10」シートパッキンを外します。

### 9.2 組立

- (1) 分解した部品のゴミ、錆等は十分に清掃し、有害な腐食、変形、傷などのあるものは新品に交換してください。
- (2) パッキン類(「10」シートパッキン、「14」ガスケット、「16」パッキン、「21」Oリング)は、全て新品と交換し、表面には流体に適合したグリースを少量塗布して下さい。
- (3) 上記のパッキン類は、弊社の供給する純正部品を使用してください。
- (4) 「2」ボンネットと「3」スピンドルのネジ勘合部には、適正なグリースを塗布してください。また、軸方向に遊び(ガタ)が1mm以上あるものは新品と交換してください。
- (5) 組立は、分解と逆の手順で行いますが、「2」ボンネットを組み込み、締め付けるときは、弁体の位置は全開としてください。
- (6) 「4」グランドナットはハンドルを回しながら、ハンドルがやや重く感じる程度まで締め付けてください。

10. 交換部品

分解検査の際に交換するパッキン部品類は、純正部品を使用してください。詳細については、弊社各営業所へお問い合わせください。

11. 保証期間

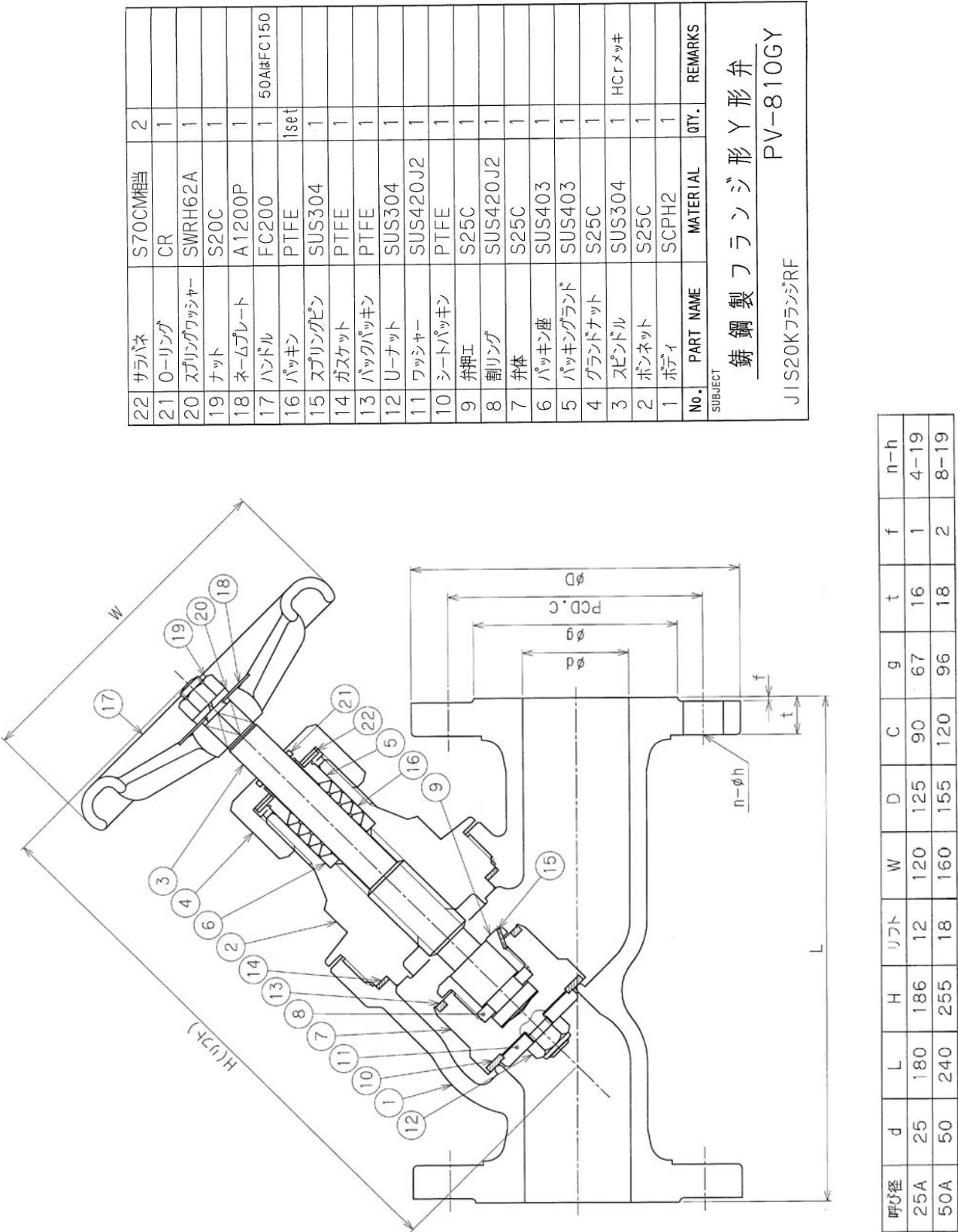
貴社での検収完了後 18ヶ月内または設置後 12ヶ月内のうち、いずれか早く到来する期間内において、製造上の問題に起因する故障が判明した場合には、無償修理もしくは交換を行います。

12. アフターサービスについて

- (1) 製品に異常が生じた場合
- (2) 製品の修理が必要な場合
- (3) 交換部品が必要な場合

上記のご相談は、宮入バルブ製作所各営業所へお問い合わせください。  
※製品の型式、サイズ、図面番号などをお知らせください。

13. 構造図



本製品についてのご質問、及び定期点検のご相談、ご依頼は下記の営業所までご連絡ください。



本 社	〒104-0061	東京都中央区銀座西 1-2	(TEL) 03-3535-5575	(Fax) 03-3567-6834
甲府工場	〒400-0206	山梨県南アルプス市六科 1588	(TEL) 055-285-0111	(Fax) 055-285-7175
札幌営業所	(TEL)011-786-1110	(Fax)011-786-1120	大阪営業所	(TEL)06-6541-8711 (Fax)06-6541-8718
仙台営業所	(TEL)022-295-4670	(Fax)022-295-4671	九州営業所	(TEL)093-921-0981 (Fax)093-921-0984
東京営業所	(TEL)03-3535-5571	(Fax)03-3567-6834	広島出張所	(TEL)082-426-5002 (Fax)082-426-5003
名古屋営業所	(TEL)052-951-3860	(Fax)052-951-3862		